

平成30年度第3回 岐阜県圏域地域医療構想等調整会議 主な質問・意見

番号	圏域	議題	項目	質問・意見	当日の回答・対応等
1	西濃	議題1		資料1の12ページと13ページに齟齬があるので、訂正させていただきたい。12ページの公立病院の欄、診療科の解釈の問題ではあるが、「腎臓内科」「糖尿病内科」ともに常勤医師はいるので、0となっているのはまずいと思う。また、消化器外科が0となっているのは明らかな誤り。このほか、リハビリテーション科についても「1」としていただきたい。	医師の在籍状況ということで、医師・歯科医師・薬剤師調査（三師調査）の項目と合わせている。病院が標榜している診療科とこちらが設定した診療科がうまく合致しないこともあるので、調整させていただく。
2	西濃	議題1		説明の中で県との比較をされている割には、資料が個別に分かれてしまっているので、次回資料を作成される際は、左右で県と圏域で分けていただくと比較がしやすいかと思う。	
3	西濃	アドバイザー講評		地域ごとに実情が異なり、公立病院、公的病院が多い地域、少ない地域と分かれており、それぞれ持っている病棟の機能が違うなどという印象を受けた。公立病院、公的病院が機能をきっちり分けないと、私立の病院の機能は出てこないと思う。地域の医師会の先生も、どの病院にはどの機能を求めるだとか、区別をしっかりとおかないと混乱を招くと思うので、そのあたり検討いただきたい。 行政は、いくつかの区分を設けて急性期、回復期を分けようとしているが、西濃であれば、大垣市民病院はとても大きいので、一つの病棟で一つの機能を分けることができるのかもしれないが、小さい病院だと一つの病棟の中に急性期も回復期も混在している。地域の実情に合わせた区分を定めるために、先生方に項目を分けながら意見を出していただくことが良いかなと思う。 アンケートも全然意味が分からないので、また、間違っているところがいくつかあるので、一つ一つ聞きながらアンケートの取り直しをしていかないと間違った情報になってしまうと思う。	
4	西濃	アドバイザー講評		以前は、国から言われたことを地方でどのように実行するかを考えることが多かったが、今の時代、地域で考えて実行してくださいという方向になっている。地域に特性があれば、それを説明する義務が地域に生じており、そのためのデータを示さないといけない。必要なデータ等は、県庁と協議することになっているが、県庁としても経験がないため、大学や医師会の先生方がアドバイザーとして入り、サポートして議論を活性化させなさいということで、地域医療構想アドバイザーが会議に参加するようになった。 したがって、地域で何を行うかは、地域で議論していただきたいということで、その代表として先生方が選ばれている。先生方に議論していただきたいのは、この地域の医療をどうしていくか、他圏域や全国と比べてほしい同じだから、これからも同じことをやっていけば良いとなるのか、それとも、地域の特殊性がある場合は、こうしていくべきだと、示せる形にしないといけない。誰が見てもそう思うためには、客観的なデータをもって示す必要がある。この地域の特殊性は現場の先生方しか分からないので、ぜひ教えていただき、さらには全国に示していただきたいということかと思う。名古屋大学、岐阜大学、岐阜県医師会もサポートするという事になっているので、地域医療を考えていくために、先生方のお力をお借りしたい。	